

ななむら

第105号

発行：照来地区公民館

責任者：館長

☎ 92-1738

令和6年3月1日現在

世帯数：516世帯

人口：男 641人

女 728人

計 1,369人

『照来地区公民館推進委員会』を開催！

3月22日（金）照来地区公民館におきまして「照来地区公民館推進委員会」を開催しました。今回は、年度末に当たり1年間の総括をするために開催したものです。

令和5年度の事業実績報告、令和6年度事業計画等についてご協議いただきました。

令和5年度の事業報告では、計画していたにもかかわらずできなかった事業があったことや、新規事業を含め、照来小学校との連携事業ができたことを成果として報告いたしました。

委員さんからは特にご意見はなかったのですが、照来地区の皆さんが望んでいる事業がいくつできたのかという疑問の残る1年だったなと感じています。

令和6年度の事業については、令和5年度の反省をを踏まえ新しい試みをと考えましたが、限られた予算の中で行わなければならない、特に大きな変化はみられない事業計画案となりました。それでも、予算の必要のない事業もできると考えています。役員改選年となっているため、ご意見をいただいたものを新年度の委員さんに提案し決定したいと考えています。

役員改選の年であり、照来地区公民館長の推薦案件も議題としてあげました。照来の申合せとして「照来地区区長協議会」で推薦することになっており、協議をしていただきました。色々とお願ひに行っていたようですが、良い返事がもらえなかったということで、残念ながら私が引き続き務めることとなりました。

ただ、引き受けるにあたり、今後も引き続き候補者を探していただくようお願いをしました。

私も最近年のせいなのか（以前からでしたが）物忘れが激しくなりましたし、人の名前が出てこなくなりました。照来地区の皆さんには、またご迷惑をおかけすることと思いますが、次年度もよろしくお願ひいたします。



「春季グラウンドゴルフ大会」が開催されました！

3月8日（金）照来すこやかクラブ主催の「春季グラウンドゴルフ大会」が「健康公園すこやかドーム」において開催されました。

39名の会員の方が参加されていました。私も大会の途中でしたが見に行きました。すると、いきなり「カチーン！」というゴールポストの中心に当たる金属音がしました。ふり返って見ると、10m位の位置から打ってのホールインでした。さすがだなと思いながら歩いていると、「あんたも会員だけえ、参加せにゃあ。」と誘われました。しかし、会員皆さんのレベルが高く10年早いなと感じました。

結果は、以下のとおりです。入賞者の皆さんおめでとうございます。

結果

- 優勝 門村和己さん（切畑）
- 準優勝 長谷坂又太郎さん（桐岡）
- 第3位 田中美枝子さん（塩山）
- 第4位 岩本道男さん（切畑）
- 第5位 田渕和男さん（丹土）
- 第6位 川崎幸太郎さん（多子）
- 第7位 宮脇三千代さん（多子）
- 第8位 田渕秋子さん（丹土）
- 第9位 森下 稔さん（多子）
- 第10位 中井久夫さん（丹土）



「メディカルヨガ教室」再開

1月、2月は積雪があるため休止していましたが「メディカルヨガ教室」を3月から再開しました。令和6年も引き続き開催したいと考えています。

なぜ、継続するかといいますと、健康を維持していく上で必要であると私自身が感じているからです。

「肩こり」「膝の痛み」「血行不良」「歩き方」等々改善できました。

皆さん、騙されたと思って一度参加してみたいかかでしょうか！

4月の開催日は、
4月16日（火）
午後7時30分です。会場は、「照来地区公民館大会議室」です。



「大会議室」にエアコン！

照来地区公民館「大会議室」に2台目のエアコンを設置しました。

これは、以前から部屋の大きさに比べエアコンが小さく効きが悪く懸案となっていたもので、この度もう1台設置をしたものです。

先日の「メディカルヨガ教室」で試運転をしましたが、大変良く効いていて快適でした。

これも「照来地区区長協議会」の方から町に要望していただいたお蔭だと感謝申し上げます。



照来の歴史 (59) 『山論 (さんろん)』

「山論」とは、山野の境界・利用をめぐる主に村落間の紛争のことです。特に江戸時代に頻発し、耕地開発の進展による山野を供給源とする刈り敷き・秣（まぐさ）などの不足から生じる場合が多かったようです。古くは、山問答といい、江戸時代には山出入り、山争い、境論、入会会議ともいっていたようです。

「温泉町史第二巻」には、『当町（旧温泉町）に残されている史料の中で比較的多く残されているのが山論争の史料である。これらを見ると長年月にわたっている山論が目立つが、その大部分は村落間の山境いを争っている。寛永期（1624年）にはじまり明治初期までの約250年間、途切れることなく続いて町内ほとんどの村落に発生している。概して、近世期のものは少ないが、延宝期（1673年～1680年）以降が多く、元禄・享保のころより更に件数増加の傾向が認められる。』と記されています。

もちろん照来でも数多く発生しています。下表は、現在残っている史料（照来分）を掲載していますが、その他にもたくさんの山論があったものと思われます。（この頃には水論も数多くあったようです。）

発生年号	関係村名	内容	備考
元禄13年（1700年）	桐岡—湯村	以前から桐岡村は字中山あわら原・大かん谷へ入込み薪取りをしていたがこれを拒まれての争論	桐岡村は山が少なく湯村に山役を支払っていた（奉行あて）
享保19年（1734年）	塩山—前村	山論のときの負傷者の一件	塩山村（豊岡領）前村（天領）
元文元年（1736年）	切畑—相岡	大たんがを刈畑などで争う	相岡村の者山菜を押収され負傷する。
天保5年（1834年）	中辻—丹土	字水が平の譲り料として丁錢七貫匁を丹土村から中辻村に支払い和談済	入割り取扱い状取り交わし丹土村庄屋
天保15年（1844年）	丹土—中辻	字水が平南西は中辻、南北は丹土の見分を願出	境界の確認
嘉永6年（1853年）	桐岡—湯村	桐岡の者が不法に桧を伐り処分したので山留めされ争いとなる	桐岡村三役より湯村三役あて山手米を五斗に倍増することで快着
嘉永7年（1854年）	塩山—飯野	惣山、西山内八山と塩山村池田在の入会境の論争	取扱い切畑庄屋、熊谷年寄、飯野庄屋・大庄屋